

“どこ空フナバシ”が オスプレイの訓練中止で市に要請

「どこの空にもオスプレイはいらない@フナバシ」(どこ空フナバシ)が10月7日、オスプレイの訓練中止や配備撤回、土地利用規正法にもとづく国への情報提供をしないことなどを求めて船橋市に要請しました。

オスプレイについて船橋市に要請する参加者と丸山慎一前県議(左から2人目)、金沢和子市議(左)。
10月7日・市役所



市役所内、オスプレイについて船橋市に要請する参加者と丸山慎一前県議(左から2人目)、金沢和子市議(左)。

市の担当者は、「防衛は国の専管事項」としながらも、「安全性が指摘されているので、上空を飛ぶ場合には議会や市民にたいして説明することを防衛省に強く求めている」と答えました。土地利用規正法については「政令も省令もまったく決まっていないので、答えられない。法律にもとづいて進めていくのが市の立場だ」と回答しました。

参加者は、「オスプレイは墜落ばかりしており、この間も緊急着陸が繰り返されている。市として、市民の安全を守るため、国にものを言ってほしい」「国に説明会を求めたのは歓迎するが、国はやるとは言っていない。きちんと開催する確約を得てほしい」「土地利用規制法は人権を侵害するものであり、廃止を求めるべきだ」と要請しました。

三番瀬を横切る「第2湾岸道路」で 三番瀬を守る連絡会が県に要請

10月11日、「三番瀬を守る連絡会」が千葉県にたいして、三番瀬を横切るルートで構想されてきた「第2湾岸道路」について、検討状況の聞き取りと要請を行いました。

1990年代には、三番瀬を埋め立てて第2湾岸道路を通す計画がありましたが、貴重な自然を守るという声が広がり、ついに2001年9月、千葉県が埋め立て計画を白紙撤回しました。しかし第2湾岸道路計画自体は撤回されなかったため、新たな埋め立ての火種を残すこととなりました。

昨年5月には第2湾岸道路の東側ルート(市川市高谷・千葉・市原)について基本計画が確認されたため、当初の構想なら両側8車線という巨大な

道路建設が、ついに動き出そうとしています。参加者は「渋滞はかなり緩和されてきているので、新しい道路は必要ない」「三番瀬に道路は通してはならないという基準を県がもうけるべきではないか」と県に強く求めました。

千葉県に第2湾岸道路建設中止を要請する参加者と丸山慎一前県議(正面の右側)。
10月11日・県庁



日本共産党地域支部が 信号機の設置を警察署に要請

10月1日、日本共産党高根台西中支部が船橋東警察署にたいして、危険な交差点への信号機設置



船橋東警察署に信号機設置を求める参加者と丸山慎一前県議(左)、坂井洋介市議(右)。
10月1日・船橋東警察署

を求めました。

この交差点では昨年1月に、車が人を跳ねて死亡させる事故が起きていますが、この事故を受けて東署が県警本部に信号機の設置を要望していたことが、要請のなかで明らかになりました。しかし、近くにすでに信号機があることなどを理由に認められなかったとのこと。

これにたいして参加者は、「付近には新しくマンションも建設され、高齢者が利用する施設もできている。周辺環境が変わってきていて、通行する人も増えているので再検討してもらいたい」「この交差点は通学路になっているので、取り分け安全確保が求められる」「自分たちで交通量調査を行ったが抜け道としても使われており、車の台数も多くなっている」などと状況を説明。担当者は「周辺環境の変化は良くわかった。あらためて調査を行いたい」と答えました。

船橋原水協が政府に核兵器禁止条約参加求める宣伝

10月3日、原水爆禁止船橋市協議会(船橋原水協)の宣伝が船橋駅北口で行われました。毎月、第一日曜日を原則に船橋市内の主要駅をまわって取り組んでいます。この日も、日本政府に核兵器禁止条約への参加を求める署名や、被爆者検診の経費に充てるための募金を呼びかけました。

戦後、76年もたつのに、いまだに地球上には人類を何回も全滅させるほどの核兵器があります。そのなかには、ボタン一つですぐに攻撃できるような実戦配備されているものも少なくありません。背景には、核兵器の力で他の国に圧力をかけようとする国の存在があります。しかし2017年7月、ついに国連で「核兵器禁止条約」が採択され、今年1

月に発効しました。ところが唯一の戦争被爆国である日本の政府は、「アメリカの核兵器は必要だ」と公言して禁止条約に背を向けています。

この日の宣伝では「声を上げ世論を広げて日本政府に核兵器禁止条約への参加を求めましょう」と呼びかけました。



船橋原水協の宣伝に参加して署名を呼びかける丸山慎一前県議。
10月3日・船橋駅北口